

2014.03.04

東京大学工学系研究科建築学専攻

川添研究室修士三年 内田奈緒

## 留学報告書

私は、2014年2月より2015年1月迄の1年間、交換留学生として、スイス連邦工科大学（以下、ETHZ）の建築学科に在籍致しました。以下に、その報告を致します。

### ■ 留学準備期間：

2013年8月初旬に留学が決まり、以後は建築事務室及び国際推進課国際交流チーム経由、必要な手続きを行い、また過去にETHZに留学していた学生の方にお会いし、諸々のアドバイスを頂きました。手続きにおける重要事項として、ドイツ語インテンシブコース（学期が始める前の2週間集中講座）の登録と、寮の申し込みがあります。交換留学生を受け入れている寮は幾つかありますが、申し込みフォームに希望する寮を記入することができます。私は先輩からBülachhofという寮を勧められて入りましたが、通学も便利な場所で設備面も快適であり、とても良い居住環境でした。

### ■ 留学期：

#### ・ 学業について

ETHZのDepartment of Architectureでは、建築の設計スタジオを中心として授業を履修します。これは週2日（火・水終日）で行われ、学期を通して設計のプロジェクトを完成させるというものです。都市計画寄りのものからランドスケープデザインも含め、20ほどのスタジオが組まれており、夫々のスタジオは教授の方針によって全く多種多様な設計手法や思想を持って進められます。私は2月からの春学期はE. Christ / C. Gantenbeinスタジオ、10月からの秋学期はPascal Flammerスタジオを履修しましたが、2つはとても対照的であり、同時に東京で指導方針とも全く異なる大変ユニークなものでした。E. Christ / C. Gantenbeinスタジオでは、バーゼルの港付近の敷地を調査し、他の都市のタイポロジーをこの敷地に移植してくるというマスタープランから始まりました。最終的には一つの建築の設計に入り、レーザーカッターによる非常に精度の高い模型の写真で、外観・内観イメージを見せるというものでした。Pascal Flammerスタジオは、ETHZにおいても今期初めて開催されたスタジオであり、敷地・プログラム、その他与条件の一切無い中で、自ら主題を選び、夫々が独自に設計を進めるというものでした。こちらは都市の一部としての建築のあり方、既存のタイポロジーを重視した前期のスタジオとは対照的に、コンテキストを全く排し、一つのアイデアによって強度のある建築の設計を進めるという手法でしたが、どちらのスタジオも異なる緊張感の中大変勉強になりました。

スタジオ以外の講義もとても興味深い内容のものが多く、私も幾つか履修しておりました。中でも、“Architecture as an expanded field” という、20人強のゼミ形式のものは、毎週のリーディング課題やプレゼンの準備等が必要でしたが、建築を違った分野の視点から考える非常に刺激的なものでした。

#### ・ セミナーウィークに関して

デザインスタジオと並んで重要と言えるプログラムが、セミナーウィークです。これは、各教授が自ら学生を率いて建築を学ぶ旅行に出るというもので、学期の真中で一週間、全授業が休講となり、学生はスタジオとは関係なく予め登録したセミナーに出かけます。私は、春学期は Peter Märkli 教授と共にイタリアの Veneto 地方のヴィラを巡り、秋学期は Ákos Moravánszky 教授と共に、チェコと東ドイツの建築を訪れましたが、セミナーウィークの一週間は、学期中で最も濃く、学ぶことの多い週と言えるかもしれません。

#### ・ 生活について

私は留学が決まった当初は半年間のプログラムということで契約しておりましたが、春学期が終わる直前に交換留学の延長を決め、夏に一年の滞在許可を貰いました。ただ、寮は 8 月末迄の契約ということで延ばすことが出来ず、9 月より友人のフラットの一部屋を借りて住むこととなりました。ここはキャンパスより徒歩 15 分程度の場所にあり、留学生ではなく、正規の ETHZ 学生が多く住んでいました。帰宅後に建築の話をしたり日々生活を共にする中で、現地の学生と親密な関係を築くことができました。

学期中はほぼ毎日授業やスタジオの作業を学校で行うこととなり、締め切り前の週末も作業に追われる生活でした。ただ、時間の取れる週末は友人と出かけたり、チューリッヒから電車で他の小さな村を訪ねたりしました。

#### ・ 旅行について

夏の休暇中はひたすら図書館で調べ物をしては、ヨーロッパ各地の都市や建築を見て回り、色々と吸収する時間を作りました。バーゼルやチューリッヒからはヨーロッパの主要都市へのアクセスが陸路・空路ともに大変便利で、そういった利点を積極的に活用し、スペイン、フランス、イタリア、オーストリア、ドイツ等を気軽に訪れ、また少し離れた北欧やアフリカ大陸のほうにも飛び、長い旅行を企画しました。